

「愛とは解き放つことよ 愛とは離れてあげること」

「星からふる金」より

息子のことがとても大事で、息子が傷つかないように、お城の周りに塀を建て、門を閉ざし、「ここより他に良い国はないのだ」と息子に言い聞かせる王様。その王様に憧れの精が言うのです。王様あなたの心の安寧ではなく、息子の幸せを願って、涙をこらえて旅立たせてあげなさい、と。

あなたはどうか？これがこの子のためだから・・・と、自分の安心を優先させていませんか？子どもが自立するタイミングを見逃さず、笑顔で手を離してあげたいものですね。



1 「いろんな勉強スタイル」があります

勉強しよう！と意欲がわき、学習がはかどるやり方は、子どもによって違います。親が「私の時はこうだった」と考えていても、子どもが同じだとは限りません。では、どんなタイプがあるか例をあげてみます。

「みんなで学習タイプ」 or 「一人で学習タイプ」

「褒めたら伸びるタイプ」 or 「厳しくしたら伸びるタイプ」



「朝型タイプ」 or 「夜型タイプ」

「追い込みタイプ」 or 「コツコツタイプ」

「みんなで学習タイプ」の子は、勉強部屋よりも、リビングなど人の気配があるところの方が集中できます。他にも、図書館や交流スペースなども良いでしょう。

「褒めたら伸びるタイプ」は、結果だけを褒めるのではなく、「頑張っているね」と日頃から声をかけたり、「休憩したら？」と、おやつを用意してあげるのも効果的です。

「朝型タイプ」の子は、夜は早めに寝て、朝早めに起き 20 分、40 分、60 分とだんだん時間を延ばしながら、リズムをつくっていきましょう。

「追い込みタイプ」は、テスト前の早い時期から勉強させてもやる気が出ません。「やばい、今回間に合うかな？」と、本人が焦るくらいがやる気に火が点くそうです。ただ・・・親の方がハラハラすると思いますが・・・。



2 「思春期に向き合おう！」

ほとんどの子どもは、思春期になると、親の言うことを聞かなくなります。見かねて注意すると、「いちいち、うるさいな！」と感情的に言い返してきたり、ぷいっと無視して自分の部屋へ行ってしまう。何ともやっかいな時期です。

しかし、見方を変えると、子どもが自分の意思や考えを、きちんと持ち始める大切な時期でもあります。このやっかいだけれども、大切な思春期において、どのように接していけば良いのか、一緒に考えてみましょう。

大切に思っていることを伝える

思春期の子どもたちは、どんなに偉そうなことを言っている、心の中は不安でいっぱいなのです。友だちのこと、好きな人のこと、勉強のこと、部活や習い事のこと、将来のことなど頭の中はパンクしそうです。



そんな時、親からちょっとでも否定的なことを言われると、自分の心を守るために言葉や行動が、乱暴になってしまうのかもしれない。

〇〇しなさい！をやめてみる

「〇〇しなさい」という言葉は、相手をコントロールしようとする言い方です。頭ごなしに指示、命令されたりすると、自立心が芽生え始めた子どもは、反発を感じてしまいます。

- ① 親がルールを決めるのではなく、守れる範囲で一緒にルールを決める
- ② いろいろ言いたいけど、まずは話を聞く
- ③ 「手伝えることがあったら言ってね～」と適度な距離をとる

～ あとがき ～

先日、こんな話をお聴きしました。

「戦後すぐのこと。兵隊さんたちが各家に宿泊され、我が家にも3人の兵隊さんが来られました。そして、私たち子どもに、大きな雑のう袋から「こんぺいとう」と「かんぱん」を出してくださいました。80年近い昔のことですが、こんぺいとうの甘さは初めてで、少しのものを大事に大事に食べました。今でもあの甘さが口の中に残っています。」と。

それから、こう続けられました。

「子どもの頃は、物の無い時代でしたが楽しい暮らしだったように思います。今は便利な道具に頼りきってしまい、と言うより、その道具に拘束されているようにも感じます。」と。

何を食べるにも、何をするにも選択肢がたくさんある今の子どもたち。自分の意思でしっかり選んでいける人になってほしいものです。

★ 今月のオススメ絵本は、「ビロードのうさぎ」訳：酒井駒子 です。

